

祭祀と供犠

日本人の自然観・動物観

なかむら いくお あかさか のりお

中村生雄著 赤坂憲雄解説

【法蔵館文庫】

▼文庫判・並製カバ！418頁・定価一、六五〇円

2022年5月刊行



動物を「神への捧げもの」とする西洋の供犠との対比で日本の供養文化を論じ、殺生・肉食禁止と宗教の関わりに光を当てた名著が文庫化。

【目次】

序章 祭祀と供犠の比較文化序説

―〈血〉の問題を手がかりに―

【第一部 動物供犠と日本の祭祀】

1 イケニへ祭祀の起源

―供犠論の日本的展開のために―

2 動物供犠の日本的形態

―古代中国との連続と差異をいとぐちに―

3 狩猟民俗の身体観

―〈食〉と〈生命〉のアルカイスム―

4 非稲作の祭祀と神饌

―〈自然〉と〈聖地〉のかかわりから―

【第二部 日本宗教のなかの人と動物】

1 古代呪術と放生儀礼

―仏教受容のアニミズム的基盤―

2 祭祀のなかの神饌と放生

―気多大社「鶺鴒祭」の事例を手がかりに―

3 殺生肉食論の受容と展開

―とくに近世真宗教団の問題として―

4 供犠の文化／供養の文化

―動物殺しの罪責感を解消するシステムとして―

5 動物供養と草木供養

―現代日本の自然認識のありか―

【第三部 柳田国男の供犠理論】

1 人身御供と人身供犠

―柳田国男と加藤玄智の「人身御供」論争から―

2 「一目小僧」の供犠解釈

―その意義と限界をめぐって―

あとがき／初出一覧

解説（赤坂憲雄）

◆著者・解説者略歴

中村生雄（なかむら いくお）

一九四六年静岡県生まれ。京都大学文学部（宗教学専攻）卒業、法政大学大学院修士課程（日本文学専攻）修了。静岡県立大学教授、大阪大学教授、学習院大学教授を歴任。二〇一〇年歿。

著書に『日本の神と王権』『折口信夫の戦後天皇論』（法蔵館）、『肉食妻帯考・日本仏教の発生』（青土社）がある。

赤坂憲雄（あかさかのりお）

一九五三年東京都生まれ。学習院大学教授。専門は民俗学・日本文化論。岡本太郎の見た日本（岩波書店）で Bunkamura ドゥマゴ文学賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

著書に『異人論序説』『排除の現象学』（ちくま学芸文庫）、『東西／南北考』『武蔵野をよむ』（岩波新書）、『性食考』『ナウシカ考』（岩波書店）などがある。

注文書	
(書店印)	
様冊	ご担当
中村生雄著 赤坂憲雄解説	法蔵館
祭礼と供犠	定価一、六五〇円
日本人の自然観・動物観 【法蔵館文庫】	ISBN: 978-4-8318-2635-0 C1139
お名前	住所
お電話	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

哲学・宗教